

9月20日に広島県動物愛護センターで「令和7年度どうぶつ愛護のつどい」が開催

令和7年度 広島県動物愛護週間事業
どうぶつ愛護のつどい

開催日時 **R7.9.20(土) 10:00~15:30**
開催場所 **広島県動物愛護センター** TEL 0848-60-8511
三原市本郷町上北方字用倉山11352番 駐車場有 満車の場合は、隣接する中央森林公園の有料駐車場をご利用ください

みんなの牧場 ふれあい動物園
10:00~15:30 入場無料! 餌やり体験もできるよ!
※事業所名: みんなの牧場/登録番号: 245004/登録種別: 園児/登録年月日: 平成26年12月14日/登録期限の末日: 令和15年12月14日/氏名: 荒谷江美穂/所在地: 東広島市河内町入野1915-5/動物取扱責任者: 荒谷江美穂

災害救助犬デモ
特定非営利活動法人 ビースウィングス・ジャパン
11:30-12:00 13:30-14:00

犬猫おもちゃ作りワークショップ
10:30-11:30 13:00-14:00

獣医さん体験
12:00-12:30 14:30-15:00
※一部当日予約が必要な内容があります

「ご注意ください!」
イベント当日は犬猫の譲渡会及び譲渡前講習会は実施しません

その他にもイベント・ブース・キッチンカーなど盛りだくさん! 詳細はHPで順次公開

主催/ 広島県 公益社団法人広島県獣医師会
協賛/ 豊田獣医師会 東広島獣医師会
特定非営利活動法人ビースウィングス・ジャパン
広島県牛乳普及協会 株式会社アイデオー 株式会社ホワイトフォックス

※イベントの内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。※ペットはリードやキャリーケースなどで、遠慮防止をしてください。※暑い犬を連れてくる際は、濡れ(あるいは濡れに相当するマイクロチップ)が装着済であること。狂犬病予防注射済票を装着のうえ、ご来場ください。

動物愛護センター

9月20日から26日は動物愛護週間 どうぶつ愛護のつどいを開催



「どうぶつ愛護のつどい」の詳細はこちらから

皆さまは「動物愛護週間」をご存知でしょうか。毎年9月20日から26日の1週間は、動物の愛護及び管理に関する法律において「動物愛護週間」とされており、この期間には、動物の愛護と適正な飼育についての関心と理解を深めるために、国、地方公共団体や関係団体などが協力してその趣旨にふさわしい行事を実施しています。

広島県動物愛護センターでは、昭和56年の開庁以降、毎年動物愛護週間に合わせて「どうぶつ愛護のつどい」を開催しています。内容は、大人から子どもまで楽しみながら動物愛護に関心を持っていただけるように、鑑賞型イベント(動物パフォーマンスなど)や参加型イベント(しつけ・健康相談会、ワークショップなど)、その他動物とのふれあい体験などを実施しています。令和7年度「どうぶつ愛護のつどい」は9月20日(土)にセンターで開催します。

また、この日には、センターの慰霊碑において献花台を設置し、犬猫の慰霊のためにイベントに参加された多くの皆さまに献花していただいています。

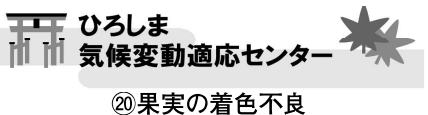
県内では、市町や動物関係団体などが開催する動物愛護週間行事も開催されていますので、ぜひ身近な行事への参加を通じて、動物

ペットの熱中症予防の詳細はこちらから(環境省)

愛護に向き合う機会としていただきたいと思っています。

犬や猫を連れてイベントに参加される際には、熱中症に気を付けましょう。9月に入っても暑い日が続きます。犬や猫なども人と同じく、適切な温度や湿度でなければ熱中症になります。屋内・屋外を問わず、熱中症予防行動をとりましょう。(広島県健康福祉局)

ブドウの着色に猛暑の影響 気温上昇に伴い着色不良地域広がる



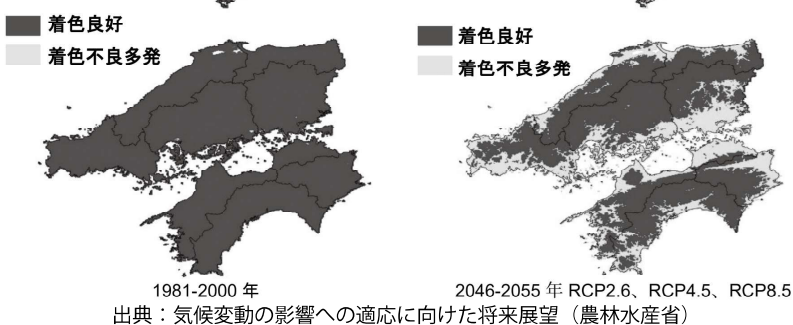
広島県内では、多種多様な果樹が栽培されています。その中でもブドウの色は気温に敏感で、果実の成熟期が高温だと着色不良が発生することが知られています。例えば、赤色のブドウである「安芸クイーン」は、着色開始後8日から21日の間に20~25℃の気温にさらされた時間が長いほど着色が良いことがわかっています。県内で露地栽培の「安芸クイーン」の着色開始は7月中旬から8月上旬頃で、暑さが厳しい時期に着色を開始して成熟期を迎えます。「ピオーネ」も同じ頃に着色します。図は、ブドウの着色予測マップです。気温の上昇に伴い、2050年頃には着色不良が多発する地域が沿岸部から、ある程度内陸部まで広がると予測されています。

着色不良の対策としては、①施設栽培によって成熟期の時期を早め、少しでも気温が低い時期に着色させる、②環状剥皮(木の幹や枝から樹皮を環状に剥ぎ取ったり傷を入れること)や着果量の制限によって、果実1つ当たりの養分を増やすなどの技術が開発されています。また、気温が高くても着色しやすい品種や、シャインマスカットのように着色が問題にならない緑色の品種を導入することも対策になります。

一般的な量販店に比べて、道の駅や産地直売の店では、日頃見かけないブドウ品種が売られていることがあります。見かけた時には色に着目して、「暑かったから色がつきにくかったのかな?」「この品種は隣の品種よりも色がつきやすいのかも?」「緑色の品種は着色が関係ないのね」など、これまでと違った視点で楽しんでみられてはいかがでしょうか。

(ひろしま気候変動適応センター)

ブドウの着色不良が多発する地域(中国四国地方)



「環境の日」ひろしま大会に出展

子ども服のリユースで脱炭素に貢献



会場には、環境について楽しく学べる体験型のブースのほか、家庭で余った食品を持ち寄るフードドライブやステージ発表などが催され、豪華景品が当たるスタンプラリーなどがあり、多くの人でにぎわいました。

当協会のブースでは、子ども服の無料譲渡会と、気泡緩衝材(プチプチ®)の回収を行いました。

衣類に関する問題として、年間1回も着ていない服が1人当たり35枚、家庭から手放される衣類の量は年間約70万トンで、そのうち約46万トンがごみとして出されています。ごみに出された衣類の95%が焼却・埋め立て処分となり、再資源化される割合はたった5%です。

子ども服の譲渡会では、子どもの成長が早く、着ないままサイズアウトした服を対象として、リユースの場を提供しました。ブース

来場者数は181人で、そのうち36人に158枚の子ども服を譲渡し、子育て世代に大変喜ばれました。

また、1万個に1つという超レアなハート型をした気泡緩衝材(プチプチ®)を探すコーナーでは、大人も子どもも見つけた瞬間を楽しんでいました。

当協会はこの「環境の日」ひろしま大会を通じて、環境保全について関心を持ち、一人一人ができることから、少しずつ、環境に配慮した行動に取り組むことに貢献します。

(脱温暖化センターひろしま)